

揺るぎなき信念、時代への階きざはし

～世界に誇る継続可能な地域まちをめざして～

松本青年会議所 理事長 上條 洋さん

インタビュー：中村美由紀

1960年以来、政治や経済だけに限らず、青少年育成、観光政策、保健福祉、環境問題、国際交流など、あらゆる分野で「今、地域に必要なものは何か？」を考え、自分たちの手でまちづくり活動を行ってきた社団法人松本青年会議所のメンバー達。そんな志ある青年経済人のひとり、2009年の理事長である上條洋さんにお話を伺いました。

目的意識を持った大人の友情

中村：今日は、上條さんの社団法人松本青年会議所（以下松本JC）への入会のきっかけや会員の皆さんがなさっている活動について伺いに参りました。よろしくお願ひします。

上條：こちらこそよろしくお願ひします。私は、不動産賃貸業とコンビニエンスストアを営んでいます。社員1名、家族経営の小さな会社です。松本JCへの入会は2000年、父親が定年退職を機に会社を起業したことで、家業を手伝うため務めていた会社・スイミングクラブを退職する際に、当時の理事長に「入会しないか」

と声をかけていただきました。

中村：トレーナーをなさっていたんですか？

上條：そうです。当時はもっと健康的な体型でしたから（笑）。その理事長は、我々夫婦の仲人も務めてくださった会社の専務で、独立の後押しをしてくれ、人生を変えてくださった方です。松本JCとの出会いを作ってくくださったことにも感謝しています。大きな驚きは、30歳を過ぎてから「真の友情」が芽生えたこと…“やんちゃ”で会社も個人も自己中心だった自分の視野が広がり、周りのみんなに「生かされていること」に気がつき、このまちに支えられて



かみじょう・ひろし

1970年松本市出身。2000年松本青年会議所入会、アルプスフロント社会創造会議副委員長、北陸信越地区支援委員会委員長、副理事長などを経て、2009年1月50代理事長就任。（前）コウヨウアイランド取締役。

生きていることを実感しました。

中村：なるほど…友情ですか。いいですね。

上條：最初は、会に参加する仲間がみんなエリートのように見え、小さなコンビニの店長で、スーツなど着たこともない自分が会に参加することが恥ずかしかった。でも、一つひとつ自分でも出来ることを見つけて実行していくうちに自信が付き、まちづくり活動の事業計画を作成し、行動していく中で、なぜこんな苦しい事をしなければならないのかと感じることもありました。やり通したあとの達成感は最高です。疲れてもまた未来のまちづくりのためにまた頑張りたい。そこがJC活動の魅力だと思います。

時代への階きざはしになろう

中村：2009年の理事長に着任された上條さんですが、所信表明のメッセージ（表題）には、どんな思いを込めたのですか？

上條：僕らの行動がすぐに成果が出るわけではないが、この地域を作る、そのための階であり、そんな松本JCになりたい。僕らが必死で真剣に取り組む気持ちを込めました。こんな苦しい時代に自ら会費を負担して活動をする。私たちはお遊びの団体じゃない!! そして、生命の営みや環境を、後世まで長期的に守り引き継いでゆく…持続可能なまちづくりが、本年の我々のミッションであると考えます。政治も経済もめまぐるしく変化し頓挫し、価値観がどんどん変わっていく社会の中で、変わら



アルプス公園の子どもまつりで初音（竹笛）作り

ない人間の本质“人を思いやる心”と“環境”を大事にしなが、今こそ基礎をしっかり固めなければと思うのです。

中村：具体的にはどんな活動をされる予定ですか？

上條：今年は、当団体が創立50周年を迎えます。50年に一度しかできないそんな事業を考えています。私は、3月に開催した講演会の講師：国際生態学者の宮脇昭先生との出会いで、大きく自分が変わりました。昨年8月に初めてお会いし、先生の考え方を知り、植樹活動が単なる環境のため

だという漠然としたものでなく、その土地に自生していた木を探し出し、その苗を植え育てることが、生命を守り愛する者を守ることに繋がると学びました。先生の理論を表現し、お伝えするのは大変難しいですが、自分たちで咀嚼し、実行していきながら伝えればと考えています。7月の、松本少年刑務所での植樹も、活動を通して命の尊さと向き合う機会になればと願っています。幅60センチの土地があれば森が出来ます。この活動は継続していくことが大切だと認識していますので、秋に向けて単なる「植樹」に終わらないようにJCらしさもプラスした活動を模索中です。この他には、子ども達に松本に根付く文化・歴史を伝えたいと『松本かるた』を計画しています。



次世代米の田植え体験を通じて、食糧・環境問題を考える



以前の“松本かるた”は歴史的価値が高いため引き続き残していこうと思います。その上で新たに私たちがこのまちの貴重な資源や財産を後世に引き継ぐべく、ゲーム性の高い、楽しく学び遊べる、また松本のお土産となるようなカルタが作れたらと考えて計画しています。

支えてくれる家族に感謝

中村：忙しく活動されていると思いますが、ご家族との時間はどうされていますか？

上條：以前は、家族にも自分が松本JCでどんな活動をしているのかうまく伝わらない苦しさがありました。家族経営の会社ですから留守番する側はとんだ迷惑ですよ。ね。「頑張ってやってこい」という言葉をも

らったのは2、3年前です。家族にも自分の活動が理解されたことが本当にうれしかったし、様々な経験を通じて自分自身が変わったことをちゃんと見てくれたと思います。いまは、社長がいてくれるから自分が外で

まちづくりの活動ができると思いますし、理事長という大役を務めることが出来るのも家族あってのことと感謝をしています。理事長職を受けることを悩んでいた昨年、9歳の娘が妻にこういったそうです。「一度しかできないんだからやればいいのに！」って…彼女が育ってきた環境の中に松本JCがあった。地域の中のお父さんの存在も知っていたことが嬉しかったですね。

中村：素敵なお家族ですね。では、最後に地域の中のお父さんである上條さんが思うこの街の宝とは何でしょう？

上條：いっぱいあります…(間)…歴史ある街とそれを守ろうとする意識。その宝を引き継いでいくことが何より大切だと考えます。

中村：“50”のロゴが刻まれたオレンジ色のネクタイに負けず、内に秘めたエネルギーをたっぷりとうちがうことができました。ありがとうございました。

なかむら・みゆき

各種イベント・式典・ブライダルMC。個別対応と地域に根ざした仕事を心がけ、信州まつもとの新たな発見を発信すべく日々活躍中。

